

## 令和3年6月決算期のご報告

弊社はコロナ禍前の本来の姿は売上比率で婚礼4割を占めております。ご周知の通り昨今結婚式自体がイベントなどの自粛と同様に新型コロナの影響で自粛を余儀なくされ、多くのお客様がキャンセルや延期、披露宴自体の縮小をせざるを得ませんでした。このため前々期は婚礼部門は3ヶ月間コロナ禍の影響を受け7%の売上減でしたが、今回の決算期は12ヶ月間コロナ禍の影響を受けており、婚礼部門は前期からさらに売上57%減少と大きく落ち込みました。

しかしながら残された葬祭売上のアップに全力を注いだ結果、葬祭部門は件数、単価共に順調に推移し、売上が増加し始めた前期からさらに当期は売上が24%増加いたしました。

結果として当期は売上783,854,892円。これはコロナ禍で売上を落とした前期に比較しさらに7%の売上減でございましたが、コロナ禍の影響を12ヶ月直撃したことを考えると、その中では最小限の売上減で抑えられたのではないかと考えております。冠婚葬祭営業収益以外のコロナ禍助成金などの営業外収益などを収支を行いますと、おかげさまで今期の経常利益は12,410,909円となり黒字を維持することができました。

ステークホルダー、利害関係者のみなさまをはじめ、様々な方々の協力によりまして無事当期の決算を終えることができたことをこの場をお借りしまして御礼申し上げます。

当期純利益に関しては前期まで会計処理していた繰延税金資産を当期で全て償却することといたしました。そのまま法人税等調整額欄でマイナスし、結果当期純利益の方は-38,948,591円にて処理を終えております。

資産に関してですが、固定資産は目立った増加はなく、基本的に減価償却で減少しております。

肝心の流動資産ですが、現預金はこの5年間ほぼ横ばいで安定しておりますが、今期は259,333,094円と26,284,112円(9.2%)減少しておりますが、施行未収入金も23,049,768円増加しておりますので、事実上ほぼ横ばいです。施行未収入金の増加はコロナ禍の影響ではなく、6月期末に葬儀施行が集中して続いたことでの入金タイムラグによるものです。流動資産全体では2.5%増加しております。弊社はコロナ禍でも行政の緊急支援などの借入も行わずにりましたが、結果として流動資産は安定しております。

今期7月に入りましてまだまだ婚礼部門はコロナ禍の影響を受けておりましたが、直近は新型コロナの新規感染者数が激減したことにより、婚礼の施行件数も10月10件、11月11件とやっと順調に回復しております。

以上当期の会計決算の概要につきましてご報告申し上げます。

(株) サンセレモホールディングス

代表取締役社長 平田義孝

### 損益計算書

(令和2年7月1日～令和3年6月30日)

単位:百万円

科目	金額
売上高	784
売上原価	256
売上総損益	528
販売管理費	605
(うち 減価償却費)	( 65 )
営業損益	△77
営業外収益	122
営業外費用	32
経常損益	13